

3.11 東日本大震災 号外No4

目次

塩竈市震災復興計画についてお知らせします
..... 1～4 P

塩竈市の情報紙

広報

じし お が ま

▶検討委員の方々が防潮堤の高さを確認しました



▶震災復興計画検討委員会では熱心な議論が交わされました



▶11月25日、「塩竈市震災復興計画案」が市に答申されました



「塩竈市震災復興計画案」が まとまりました

「塩竈市震災復興計画」について審議していた「震災復興計画検討委員会」が11月15日(火)に開催され、25日(金)に委員長から復興計画案が市へ答申されました。

復興計画案がまとまるまでには、市民の方々の意見が計画に反映されるよう、地区懇談会、市民や企業へのアンケートなどを行いました。また、「震災復興計画検討委員会」では、毎回多くの意見が出され、熱心な議論が交わされました。計画案の内容については、広報しおがま12月号で紹介しています。

復興は、これからが本番です

復興計画の策定にあたっては、委員の方から多くの意見が出されました。まとめきれないかと思うこともありましたが、いろいろな方の方の皆さんの意見を聞かないことには何も作れないので、多くの意見が出されてよかったです。思います。

復興計画については今日まとまりましたが、本番はこれからです。市民の方が中心となり、真剣に復興に取り組んでいただきたいと思います。行政にお任せではなく、自分のこととして、覚悟をもって取り組んでほしいです。



震災復興計画検討委員会
委員長
首藤 伸夫 さん

第1回検討委員会

- ◇日時 平成23年6月8日(水) 17:00～
- ◇議題 ①塩竈市震災復興計画の策定 ②東日本大震災に係る塩竈市の被災状況
③塩竈市震災復興計画基本方針(素案)



『委員会での主な意見』

- 地区懇談会は被災された地域を重点的に行うべき。地元の意見を吸い上げ、実効性のある計画を作らなければならない。
- 今回の被災状況には公共施設しか記載されていない。市民生活にとって重要なので、民間施設の被災状況についても市として調査していただきたい。
- 公共施設の復旧を早急にしていただきたい。
- 復興計画の理念に、「塩竈の水産業・水産加工業が東北地区全体の力になり復興させる」くらいのことを掲げて欲しい。また、市民の心のケア、生活の問題まで考え、塩竈をさらに元気にするというニュアンスを含めて欲しい。
- 市民の心の状態、心の問題を離れてはいけない。

第2回検討委員会

- ◇日時 平成23年7月5日(火) 13:30～
- ◇議題 ①計画書の構成例と検討スケジュール ②津波による被害状況と復興の課題
③塩竈市震災復興計画基本方針(素案)

『委員会での主な意見』

- 観光客がどのくらい減っているのか、港湾機能がどれくらい失われているかなど、活気に関する被害状況が重要である。
- 長期総合計画は平成23～32年度までの計画。その中で今回の地震によって見直すところと、急ぐ必要がある部分がある。長期総合計画と見合わせながら検討委員会を進めて行くべきである。
- 多重防御のイメージは、岩沼、名取など広いところでは良いが塩竈は非常に面積が狭いためできない現状にある。県では、狭い土地でもそれに匹敵するような、例えば仙石線の高架橋などを利用するようなハード面の計画はあるのか。
- 浦戸の特に寒風沢地区では家屋が流出している。高齢化に伴い家を再生していくのは不可能に近い状態である。跡地を行政で買い上げて有効活用していただきたい。
- 通信連絡網をもっと広域で考えた方が良い。震災時などにいつでも連絡をとれるように、市・県レベルではなくて国レベルでの情報発信の取り組みを加えてほしい。

第3回検討委員会

- ◇日時 平成23年8月2日(火) 13:30～
- ◇議題 ①市民意向調査(中間報告) ②企業・事業所意向調査(中間報告)
③塩竈市の復興に向けた課題(案)

『委員会での主な意見』

- 復興の前に、現在、不便をしている生活を元に戻してから復興の話題に進んでほしい。
- 浸水地域には住めないという理由で早々に別の地域に移った人もいる。安全な高台の代替地を求める人もいるかと思うが、市内に代替地も無いということであれば、例えば国の土地を払い下げてもらい復興を進められないのか。
- 地域の問題は一つ一つ事情が違うので、各地域の住民から吸い上げて、方針に照らし合わせて解決して行くべきである。
- 市内各所で被災家屋の解体作業が進行し住環境が大きく変化している。現在、市で把握している被災家屋の解体申込の状況をマップ的な手法で表現していただきたい。
- 三陸道から利府のトンネルに続く道路について計画のどこかに早急な整備の促進を入れてほしい。
- 浅海漁業は大変な被害を受け、どうやって再建をするかということで頭を悩ませている。浦戸では協業化に向けて、試行錯誤しながら始まっている状況にある。また、これからは観光の開発が必要で、そこで雇用を促進する必要がある。
- 復興の指針として、市の最大の産業である水産加工業を復興の基軸にするために、新浜町を水産加工製造特区に制定し、特区と連動して鹽竈神社、松島を基盤とした門前町の再生を目指してはどうだろうか。



◀震災後初の水揚げ(4月14日)

第4回検討委員会

◇日時 平成23年9月6日(火) 13:30～

◇議題 ①市民意向調査の結果 ②企業・事業所意向調査の結果 ③地区懇談会の概要 ④塩竈市震災復興計画(案)

『委員会での主な意見』

- 地盤沈下については、市民意向調査に出ているように実際に自分たちで直して動いているところもある。その場合、どのくらいかさ上げをするのかが分からないと家も店舗も直せない。どのくらいのかさ上げをするのか、幅や高さがどのくらいなのかを早めに出されないと困っている方がたくさんいる。
- 浦戸特有の観光資源ということで、三陸の観光を作っていくこと、自然を活かした観光資源ということで景観形成の推進と生態系の維持を入れた方が良い。
- 被災地区の商店街が海岸通、本町、港町、北浜、藤倉にある。建物の解体をしている途中だが、地域コミュニティ機能を重視した商店街の再生やまちづくりの整備・指針を市でも早く打ち出していきたい。
- 海上自衛艦の補給基地を誘致してはどうか。補給と乗組員の休養ということで船を誘致して、補給基地のようにすれば経済効果が大きく期待できる。
- 塩竈の漁港が石巻や気仙沼に取り残されないように頑張るのが一つの課題である。マグロに特化しない魚市場を目指して取り組むべきではないか。

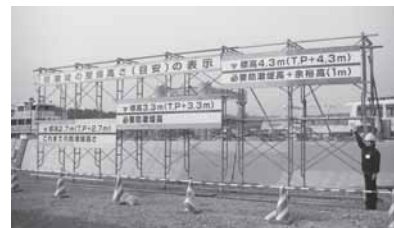
第5回検討委員会

◇日時 平成23年10月4日(火) 13:30～

◇議題 ①塩竈市における防潮堤整備の経緯など ②塩竈市地区別復興構想(素案)

『委員会での主な意見』

- 奥尻では防潮堤を高くしたら観光客が来なくなったという話もある。安全・安心が原則だと思うが、観光も大事な産業である。
- 多重防御と聞くと構造物で津波を全部止めてしまうという意味に取られがちだが、そうではなくて構造物も使いながら、例えば避難路を整備する、防災教育をきちんとするというようなものも全部含めて、いろいろな手段で人命は守っていくという意味である。防潮堤の整備については、3.3mから4.3mの間で、これからのまちのいろいろな産業との兼ね合わせで場所に合った守り方を組み合わせていくということを提案したい。
- 地盤沈下の影響による洪水などの冠水が頻繁に起こるので、何らかの対策が必要だということを復興の課題として忘れないでほしい。
- 塩竈の加工団地には津波が来なかった。この加工団地は宮城県の宝である。その宝を企業にアピールしてどうぞ来てくださいと言えるためには地盤改良が必要である。
- 安全・安心なまちづくりの観点から防犯についても復興の新しいまちづくりにおいて盛り込んだら良い。



第6回検討委員会

◇日時 平成23年11月15日(火) 13:30～

◇議題 ①第2回地区懇談会の概要 ②塩竈市震災復興計画(案)

『委員会での主な意見』

- 産業の復興といったときに東北は放射能問題から避けては通れない。いかに放射能と共存する社会をつくっていくべきなのか、復興計画に放射能問題に対する取り組みをぜひ入れた方が良い。
- 復興計画案で今一番市民が望んでいるのは住みなれた元の住宅で安心した生活を送りたいということがあげられる。計画を早急に進めるとい言葉を入れていただきたい。期限が決められている事業については具体的なスケジュールなどを示した方が市民が見て具体的に分かるのではないかと。
- いわゆる復興バブルが現実に起きているということを非常に心配している。今度の復興のときにもその後になんかということまで外部の人が考えずに売り込んでくることもある。そういうところはぜひ注意して行っていただきたいし、計画が終わった後にどう続くかということも十分に考えていただきたい。

「塩竈市震災復興計画」がまとまるまで

5月

- 5月 1日 震災復興本部を設置。
- 震災復興基本方針（素案）を策定。

6月

- 6月 8日 第1回震災復興計画検討委員会開催。

7月

- 7月 5日 第2回震災復興計画検討委員会開催。
- 市民意向調査、企業・事業所意向調査実施。

8月

- 8月 2日 第3回震災復興計画検討委員会開催。
- 第1回地区懇談会を実施。

9月

- 9月 6日 第4回震災復興計画検討委員会開催。「震災復興計画中間案を策定」

10月

- 10月 4日 第5回震災復興計画検討委員会開催。「地区別復興構想(素案)を策定」
- 第2回地区懇談会を実施。

11月

- 11月15日 第6回震災復興計画検討委員会開催。「塩竈市震災復興計画(案)を決定」
- 11月25日 塩竈市議会全員協議会に「塩竈市震災復興計画(案)」を報告。

震災復興計画検討委員

	氏名	団体役職名
学識経験者	首藤 伸夫	東北大学 名誉教授 (委員長)
	新妻 弘明	東北大学大学院環境科学研究科 教授 (副委員長)
	小玉 哲也	東北大学大学院医工学研究科 教授
	姥浦 道生	東北大学大学院工学研究科 准教授
	鵜飼 信好	宮城県漁業信用基金協会 理事長
地元産業関係者	桑原 茂	塩金商工会議所 会頭
	志賀 直哉	塩竈市水産業震災復興期成同盟会 副会長
	千葉 眞澄	塩釜市浅海漁業振興協議会 会長
	阿部 善久	塩釜蒲鉾連合商工業協同組合理事長
	太田喜一郎	仙台塩釜港振興会 常務理事・事務局長
住民代表	土井 俊彦	塩竈市浦戸振興推進協議会 会長
	土井 萬平	西部地区町内会連絡協議会 会長
	日野 勝博	港町第一町内会 会長
	小野 正志	藤倉親交会 会長
	和田 忠	塩竈市災害復旧連絡協議会 会長

東日本大震災の対策

申請はお早目に

東日本大震災による、家屋などの「被災証明書」の新規申請は12月28日(水)で終了します。まだ申請していない方は、お早めに税務課までご相談ください。

問 税務課 ☎ 364-1111 (内216・218)



「しおナビ仮設住宅特別便 伊保石お〜らいタクシー」が運行開始しました

11月1日から伊保石の仮設住宅と市の中心部をつなぐ、定時定路線、定額料金の乗合タクシーが運行開始しました。
1日4便、伊保石ステーションと本塩釜駅、市立病院、塩釜駅を往復します。仮設住宅にお住いの方々に事前に利用登録してもらい、会員証を提示して利用していただくようになっていきます。



伊保石の仮設住宅に「市ふれあいサポートセンター」が開所しました

11月15日(水)、伊保石の仮設住宅に、「市ふれあいサポートセンター」が開所しました。サポートセンターには、保健師、看護師、生活指導員などの専門スタッフが常駐し、生活や健康などの相談に応じます。運営は社会福祉協議会が行います。